

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ①アクトピア大洲、フジグラン大洲跡地について
- ②大洲市DX推進計画について
- ③二地域居住等促進モデル事業について
- ④ウォームシェアの取組について
- ⑤子ども食堂について
- ⑥「ラーケーション」について

JR伊予大洲駅を利用する通学生への配慮について

問 JR伊予大洲駅を利用する学生が汽車待ちや自習などに利用していたアクトピア大洲が閉店した。肱川橋から駅までの間に、待合場所、コミュニティースペース等の整備を行うことはできないか。

答 今年度開設した大洲イノベーションセンターの1階コワーキングスペースにおいて、下校から帰宅までの公共交通等の待ち時間には無料開放を行うほか、大洲市高校生起業家育成事業においても、受講生徒からの発案で、帰宅までの空き時間の活用を課題とした多世代交流の実証事業として、飲食スペースの開放や世代を交えたクイズ大会などを先月開催しました。

この高校生の取組については、商工会議所をはじめ市内商工業者にもその目的を賛同いただき、現在、空き用地や空き物件の情報が提供され始めたところ です。

今後においても、商工団体や商工事業者とも情報共有を密にしながら、市としてどのような支援や整備ができるか検討を進め、地域活性化のきっかけづくりに取り組みたいと考えています。

産業のDXについて

問 大洲市DX推進計画における、産業のDXについては具体的な成果が乏しいと感じているが、理事者の見解を伺いたい。

答 産業のDXについては、令和3年に策定した大洲市DX推進計画において5つの戦略を掲げ、キャッシュレス決済に対応する端末機器の導入な

ど、経営環境のIT化等を支援する事業やスマート農業を実施する認定農業者等に対する支援事業、大洲イノベーションセンターの整備や高校生チャレンジプログラムなどを実施しています。

キャッシュレス決済への対応等については、経営者の高齢化等により、既存店舗における導入が進まない事情もありますが、商工会議所や商工会などを通じてニーズを適切に把握した上で、引き続きできることから推進していきたいと考えています。

子ども食堂について

問 大洲市内では、現在こども食堂が3つの地域で実施されている。松山市などではスマホからの申込が可能となるなど、DX化も進んでいるが、大洲市は今後具体的にこども食堂に対してどのような取組や支援を行っていくのか伺いたい。

答 大洲市では、菅田、田口、若宮地区の3か所でこども食堂が開催されており、運営団体の皆様の御尽力により、子供たちや高齢者など、地域の皆様が楽しく交流しながら食事を取れる場を提供いただいているところです。

現在、こども食堂に関する相談は、大洲市社会福祉協議会が窓口となって活動を支援いただいておりますが、こども食堂が注目されるようになって日が浅いこともあり、活動の趣旨や地域コミュニティに果たす役割、そして多くのボランティアに支えられた運営であることなど、まだまだ地域における認知度が低い状況が見受けられます。

市としても、市社協と連携を図りながら、こども食堂の取組について広く理解を得られるよう、広報等により啓発を行うとともに、運営実態に合わせた支援などについても検討していきたいと考えています。

また、デジタルツールを活用した予約管理等については、他の自治体やNPOなどのシステム導入事例等を調査研究し、運営団体の皆様へ情報提供するとともに、実際に必要とされる支援の内容や課題などを十分伺いながら、デジタルツールの活用可能性と一緒に検討していきたいと考えています。